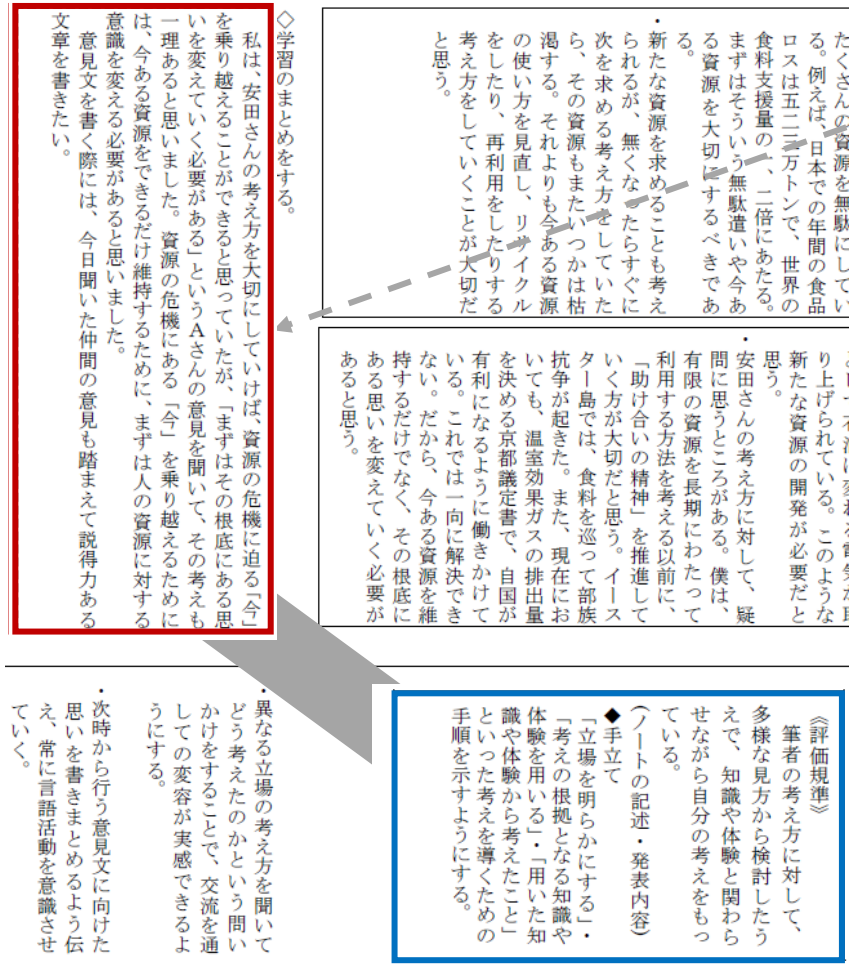
ねらいにせまるための指導の工夫

①育成を目指す資質・能力の具体的な理解と指導計画の工夫



たくさんの資源を無駄にしている。例えば、日本での年間の食品ロスは五二三万トンで、世界の食料支援量の一、二倍にあたる。まずはそういう無駄遣いや今ある資源を大切にするべきである。

・新たな資源を求めることも考えられるが、無くなったらすぐに次を求める考え方をしていたら、その資源もまたいつかは枯渇する。それよりも今ある資源の使い方を見直し、リサイクルをしたり、再利用をしたりする考え方をしていくことが大切だと思う。

・安田さんの考え方に対して、疑問に思うところがある。僕は、有限の資源を長期にわたって利用する方法を考える以前に、「助け合いの精神」を推進していく方が大切だと思う。イースター島では、食料を巡って部族抗争が起きた。また、現在においても、温室効果ガスの排出量を決める京都議定書で、自国が有利になるように働きかけている。これでは一向に解決できない。だから、今ある資源を維持するだけでなく、その根底にある思いを変えていく必要があると思う。

◇学習のまとめをする。

私は、安田さんの考え方を大切にしていけば、資源の危機に迫る「今」を乗り越えることができると思っていたが、「まずはその根底にある思いを変えていく必要がある」というAさんの意見を聞いて、その考えも一理あると思いました。資源の危機にある「今」を乗り越えるためには、今ある資源をできるだけ維持するために、まずは人の資源に対する意識を変える必要があると思いました。

意見文を書く際には、今日聞いた仲間の意見も踏まえて説得力ある文章を書きたい。

《評価規準》

筆者の考え方に対して、多様な見方から検討したうえで、知識や体験と関わらせながら自分の考えをもっている。

（ノートの記述・発表内容）

◆手立て

「立場を明らかにする」・「考えの根拠となる知識や体験を用いる」・「用いた知識や体験から考えたこと」といった考えを導くための手順を示すようにする。

・異なる立場の考え方を聞いてどう考えたのかという問いかけをすることで、交流を通しての変容が実感できるようにする。

・次時から行う意見文に向けた思いを書きまとめるよう伝え、常に言語活動を意識させていく。

単位時間の終末での子供の姿を、指導事項と関わらせて具体的にイメージして単元・単位時間の指導計画を立てることで、本時に講じる手立てや評価が明確になり、生徒が自己の学びを実感する姿につながっていました。

②「考えの形成」の授業における課題化の工夫

教科書の文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを形成することができるよう、課題を工夫したことで、教科書の言葉を引用したり、調べた資料についてICTを活用して示したりしながら、自分の考えを伝える姿がありました。